

る。粘土とセメントを混ぜて、ながら大切に使えば十五年は天井を作ったが、手入れをし「もつ」と話していた。

横尾さんが施設名寄贈

上州水士舎 印刷物などに書活用

兵庫県出身の美術家、横尾忠則さんが、富岡市後置の知的障害者通所授産施設、上州水士舎(金谷透施設長)に施設名を贈った書作品を寄贈し、権擁護活動などを通して十数年、

金谷施設長と横尾さんは人権擁護活動などを通して十数年、



横尾忠則さんに贈られた書をもつ上州水士舎の金谷透施設長

年前から交流がある。金谷施設長は以前、横尾さんが書いた故栗田健三郎さんや故谷内六郎さんの墓碑銘を見て魅せられ、今年春の開設に合わせ「上州水士舎」の書を横尾さんに依頼した。

贈られた書は縦、横それぞれ一つずつ。金谷施設長は「期待通りの素晴らしい字。厚かましい読みを本当にさいてもらい、とても感激」と喜んで

いる。

横尾さんは一九三六年生まれ。西脇高校卒。絵画、ポスター、グラフィックアート、装丁など幅広く活躍しており、作品はニューヨーク近代

美術館、ボストン美術館など国内外およそ八十の美術館などに収蔵されている。

自信作を

26人が披露

甘菜で俳句作品展

月刊俳句誌「桐」(主宰・高橋洋一さん)の会員でつくる藤川会と佐保会の俳句作品展が十月三十一日まで、甘菜町小幡のギャラリーお休み処大手門で開かれている。四十歳代から八十歳代までの会員